



2019 3 15

152-0002 6-15-3  
TEL 090-1796-5099 FAX 03-4330-1880 MAIL office@n283.com

!?

私も含め、花粉症の人間にとっては過酷な季節が訪れています。戦後の植林政策で激増したスギによる花粉症を人災と捉えるかは議論のあるところですが、明らかに人間の営みによって生み出され、地球環境に影響を与えつつある問題の一つが海洋プラスチックであり、今号のテーマです。

### ■ 海洋プラスチック問題に世界が注目

死んだウミガメやクジラなどの体内から大量のプラスチックが出てきた話に象徴されるように、この問題は世界的な関心事となっており、2018年6月のG7サミットでは、「海洋プラスチック憲章」が取りまとめられ、使い捨てプラスチックからの脱却が目指されています。

中でも、破碎され5ミリ以下の大きさになった「マイクロプラスチック」は、回収がほぼ不可能である一方、流出量が増加・蓄積し、現在では世界のあらゆる海に浮遊しているとされ、魚や海洋生物、さらには人体からも検出されています。健康への影響は未知数ですが、有害物質を吸着しやすい性質であることは疑いなく、看過できません。

なお、残念ながら日本と米国は憲章に署名していませんが、国内では同じ6月に「海岸漂着物処理推進法」が改正され、事業者にはマイクロプラスチックの使用抑制の努力義務が課され、政府には施策を検討することが求められています。

### ■ 日本は「ホットスポット」

2015年の環境省の調査では、日本周辺海域の

マイクロプラスチック濃度は世界の海の27倍であったと報告されており、いわゆるホットスポットとなっています。そして、これらが近隣諸国から排出されたものばかりかということ、そういう訳でもないようです。

国内の河川を調査した研究グループによると、対象となった地点の86%でマイクロプラスチックが発見され、その濃度は、市街地率など人間活動の活発さと明らかな相関関係が認められています。

また、別の民間調査では、目黒川(!)の河口付近のマイクロプラスチック濃度が、世界平均の10倍以上であったという結果も報告されています。この数値には、目黒区における人間活動も影響を及ぼしていることは容易に想像できます。

### ■ 議論を始めませんか？

この民間調査では、最も多いマイクロプラスチックは、人工芝から生じたものでした。また、屋外で使われる洗濯用品や園芸用品が劣化して、最後は海洋に流出するというケースも指摘されるなど、この問題は単純にリサイクルを推進するだけでは解決できません。

確かに、レジ袋なども含めたプラ製品の利便性は、我々の生活にとってかけがえのないものであり、一足飛びに脱プラスチックへ向かうのは困難です。しかしながら、将来の世代に引き継ぐ地球環境に思いを馳せつつ、今できることを議論することは、現代に生きる者の責任ではないでしょうか。

皆さまのご意見をお寄せ下さい！ office@n283.com

西崎つばさ  
プロフィール

35歳、2児の父。円融寺幼稚園、向原小、九中、都立青山高校、東京外語大英語科卒業。目黒雅叙園に勤務後、手塚よしお秘書。その後、蓮舂秘書。2015年、目黒区議選で初当選。超党派組織「東京若手議員の会」副代表。

